

京都・平安京左京八条三坊二町

1 所在地 京都市下京区西洞院通塩小路ル東塩小路町六〇

八

2 調査期間 一九八四年(昭59)七月～十一月

3 発掘機関 平安博物館

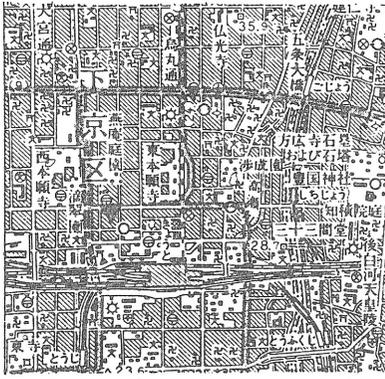
4 調査担当者 定森秀夫・片岡 肇・隴谷 寿

5 遺跡の種類 都城跡

6 遺跡の年代 平安時代～江戸時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

本遺跡は、当館が昭和五四～五五年に調査した新京都センタービ



(京都東南部)

ル敷地の西隣りにあたる。

今回の調査では、主な遺

構として、平安時代前期～

中期の溝、鎌倉時代の常滑

・東播系須恵器大甕を使用

した甕棺墓や木棺・土壙墓

等を検出した。また、江戸

時代では用水路によって区

画された畑を確認した。

木簡が出土したのは、平安時代の溝で、これは当館が前回調査した大溝の西への続きとなる。溝内はほぼ三層に分けることができたが、木簡は中層の暗灰色粘質土層から出土した。共存遺物には、多量の土器の他に、人形・櫛・下駄・沓等の木製品や木材片・木片、動物骨・植物遺体があり、少量ではあるが石帯・土錘・土馬等も出土している。墨書土器では、土師器・須恵器とも「大」とかかれたものが多く、他に「人給酒」とかかっている土師皿等もあった。

共存遺物よりみて、ほぼ九世紀代のものと思われる。

8 木簡の積文・内容

(1) 「三月十九日 (114)×19×4 051

(2) ・「山代」 (80)×23×4 019

・「六年」〔十カ〕 (69)×(10)×(1) 081

(3) 在京 (80)×(11)×(1) 081

(4) 「節カ」 「研カ」 (104)×(17)×4 081

(5) 「入カ」 (80)×(11)×(1) 081

(6) (69)×(12)×3 081

9 関係文献

下條信行・川西宏幸『平安京左京八條三坊二町』(『平安京跡研究調査報告』第6輯 一九八三年)
 定森秀夫・隴谷寿・植山茂『平安京左京八條三坊二町——第二次調査——』(『平安京跡研究調査報告』第16輯 一九八五年)
 (定森秀夫)

- (7) 七 105 × 19 × 4 051
- (8) 『中』 90 × 18 × 2 059
- (9) 49 × 5 × 4 081
- (10) 女羊人 45 × 17 × 3 081
- (11) 也 110 × 19 × 2 085

